



総合教育センター 准教授

大嶋 康裕 OSHIMA Yasuhiro

E-mail/yohshima@ed.sojo-u.ac.jp

研究業績
データベース



eラーニングを上手に活用してみませんか

～埋もれている電子ファイル・研修資料・ノウハウの活用～

研究シーズ概要

「人材育成の方針として研修教材の内製化を行いたい」と、考えておられる方も多いかと思えます。この「eラーニング」を効果的に活用する方法に関する助言、提案を行います。

上記の状況で「eラーニング」を活用するとき、課題がいくつかあります。

- (1) 作成のための専用ソフトウェアに慣れるための時間とコストがかかること。
- (2) 教材作成そのものに時間とコストがかかること。
- (3) 作成した教材が、使いやすく整理されていないため利用されないこと。
- (4) 学習者が持つ携帯電話の様々な端末上で、動画を再生できるよう教材が作成されていないこと。

10年前と比較すると、現在は5Gの普及を控え、高速通信が可能な携帯電話端末を各個人が持ち、動画を閲覧することに多くの人が慣れてきています。この時代の変化を踏まえ、教材作成者・利用者ともに無理なく継続的に「eラーニング」を活用する方法を提案します。

たとえば「PowerPointスライドで作成した教材にナレーションを加えたものを動画に変換して公開する」という際に、「公開範囲を制限しつつ、学習者の脱落・離脱を防ぐための動画を配信する方法」には多様な選択肢があります。また、特定の装置の前でキー入力を伴わず映像教材を提供する方法も複数の選択肢があります。

利点・特長・成果

- 過去のPowerPoint資料を埋もれさせず、ナレーションを加えるなどして最小限の修正コストで、社内研修や引き継ぎマニュアルに加工する方法を提案できます。
- 既存の業務マニュアル・業務フローを踏まえ、継続的に保守が可能な教材を、対象となる組織やグループが更新していく体制についての助言ができます。(本研究者は、情報処理技術者試験の区分におけるシステムアナリスト試験の合格者です。)
- たとえば中国(Mainland)においては、Apple、Googleの影響下に無い携帯電話端末が多数普及しています。こういった端末における動作確認なども、既に留学生への教育手法の実践の中で知見が得られています。
- 関連して、過去に様々なソフトウェアで作成したドキュメント資産を、現在のPCでどのように活用するか、といった相談もあるかと思えます。有償無償など多くの変換ソフトウェアを、上手く活用していくことがポイントです。

その他の研究シーズ

- 研修内容の知識定着確認として簡易なテストを手軽に実施したい場合の、オンラインテストの実施形態に関する助言、提案
- 収集したテスト結果、ログデータに関する統計的な分析手法、可視化の提案。特に、社内人材での分析が可能な手法に関する提案、指導

キーワード eラーニング、教育、研修、マニュアル

本技術に関し、対応可能な連携形態(サービス)


知財活用	可	技術相談	可	共同研究	可
施設機器の利用	否	研究者の派遣	可	技術シーズ 水平展開	可

開発段階


5	第5段階	製品・サービス化(試売/量販)段階	2	第2段階	試作(ラボ実験レベル)段階
4	第4段階	ユーザー試用段階	1	第1段階	基礎研究・構想・設計段階
3	第3段階	試作(実証レベル)段階			

SDGsの目標

4 質の高い教育を
みんなに



8 働きがいも
経済成長も



9 産業と技術革新の
基盤をつくらう

